

複合経営による所得の確保

(第1回検討会資料より)

【「農業経営の展望」で提示した複合経営の事例】

農業と林業の複合経営を通じた経営安定化

【福岡県】

実施主体の概要

- ・キウイフルーツ 50a
 - ・タケノコ 40a
 - ・林業 5.7ha
- (注)福岡県作成のモデル



キウイフルーツの栽培



タケノコの収穫作業



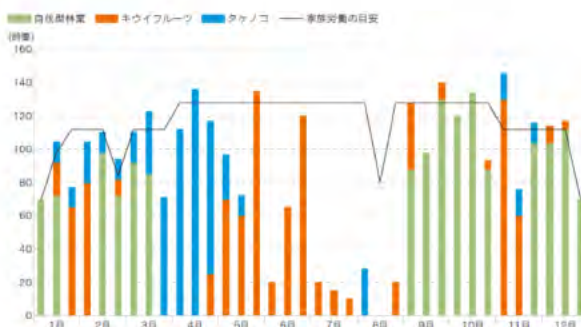
軽トラックによる木材の運搬

取組の特徴

- ・夏季にキウイフルーツ栽培、秋期から冬期に「自伐型林業」、春先にタケノコ栽培を行う組み合わせで、7月～8月には時間的余裕がある。
- ・家族2人での経営の場合、年間の総労働時間は3,184 時間。

・「自伐型林業」は、チェーンソーと軽トラック、ロープウィンチのみを使用するため、初期投資が少ない。

月別労働時間の推移



取組の工夫・効果

- ・繁忙期が重ならない品目を組み合わせることにより、年間の労働力を平準化。
- ・初期投資費用を抑えたことにより、参入のハードルを低減。

・所得(粗利益－経営費)

キウイフルーツ収入:475万円/年－311万円/年＝164万円/年

タケノコ収入:132万円/年－58万円/年＝74万円/年

林業収入:150万円/年－33万円/年＝117万円/年

・出荷量

キウイフルーツ:12,500kg/年

タケノコ:1,025kg/年

木材:217m³/年

【「農業経営の展望」で提示した半農半Xの実践の事例】

半農半X(酒造り)で収入を安定させることにより就農を実現

おおなんちょう

【島根県邑南町】

実施主体の概要

- ・酒米 45a
- ・野菜(広島菜、キャベツ、スイートコーン) 100a
- ・定住の種別 1ターン(出身:兵庫県)
- ・就農形態 半農半蔵人(半農半X)

取組の特徴

- ・地元兵庫県で働くも、東日本大震災をきっかけに新規就農を決意。
- ・島根県が良好な就農支援条件で、半農半蔵人を推奨していることから、農業で酒米をつくり、その米で酒をつくりたいと思い、島根県で就農。
- ・農業は野菜がメインで、酒米が少々。蔵人の仕事は10月から始まり、11月～3月末までは蔵人がメイン。

取組の工夫・効果

- ・半農半蔵人として働く形態は、通年雇用できない小規模な酒造会社と農閑期の働き口を求める農家にとって、非常にマッチしている。
- ・農業販売額: 500万円/年
- ・出荷量
- ・蔵人収入 : 150万円/年
- 酒米 : 1.8t/年、酒 : 40t/年



野菜を栽培するNさん
※しまね就農支援サイトより

(参考) 本格的営農でない農への関わりに対する地方自治体の支援例

- 地方自治体では、国の施策では対象とならない、本格的営農でない農への関わりについて、単独事業で支援している例がある。

本格的営農でない農への関わり の支援施策例	概要
半農半X支援事業（島根県）	○兼業収入等を加えた「半農半X」型の就農に対して、移住から定住までの各段階において総合的な支援を行い、就農希望者の農村への定住促進と、県内農業・農村の担い手の育成・確保をめざす。 ○市町村が「半農半X定住モデル」を作成し、併せて「半農半X実践者」を認定。 ○半農半X 実践者が就農前に行う農業研修期間中の経費を助成。 ○半農半X 実践者の定住・就農開始後の経費を助成。
農ある暮らし入門研修（長野県）	○農業や自然を身近に触れ合う「田舎暮らし」や、「農ある暮らし」への志向が高まる中、農業に興味を持ち、将来長野県内へ移住を希望する方や、移住した方等を対象とした農業に親しむ体験型研修を実施。 ○対象者：移住希望者、移住者、定年退職者など ○研修内容 ・農業の基礎の座学や実習及び田舎で暮らすための現地視察 ・実習：農具の使い方、種まきから収穫まで、野菜、水稻、果樹、花き等の栽培技術の基礎等について実習を通じて学ぶ ・座学：農業や田舎で暮らすための基礎知識について学ぶ ・視察：1ターン農家や先輩移住者の体験談を学ぶ ・その他：就農についての個別相談を実施